

環境省の給餌事業の一環で、一部置き餌を実施しています。その中でいろんな実験も行っています。その一部は会報35号で報告しましたが、まだ面白いことがあるので報告します。

雄親は雛が小さいうちはひと口サイズの餌を運びます。雛の巣立ち後はまずは自分が一口サイズの魚を何尾か食し、次にサイズの大きい物を選んで幼鳥に運びます。幼鳥は魚を受け取っても、不安定な枝上ではうまく引きちぎって食べることができません。その様子を見ていた雌親は幼鳥のもとに行き、そっと魚を受け取り小さく引きちぎって幼鳥に与えます。その際自分も食べます。このような行動は幼鳥がうまく食べられるようになるまで見られます。雄親は小さいサイズの魚を運んでもいいわけですが、なぜ大きい物を選んで運ぶのでしょうか？巣立ちした幼鳥は大食漢ですから、何回も運ばなくてははいけません。大きいサイズなら回数を減らせます。魚のサイズ（重さ）を比較すると大きいサイズは6倍以上重く、そして雌も食べることが出来ます。これも省エネの一環でしょう。野生動物の行動には無駄がないです。



夕暮れ（餌を運ぶ）大きい魚



シルエット（餌を運ぶ）大きめの魚

事務局・米谷実氏退職のお知らせ



当会の立ち上げから13年、事務局として当会を支え多大な貢献をされた米谷実さんが、事務局を委託している北海道二十一世紀総合研究所を退職され、当会事務局からも離れることとなりました。米谷さんは温かいお人柄で事務局をまとめ、組織の基盤を築いて

米谷氏を囲んだ理事メンバー一同

くださいました。これまでの献身的なご尽力に、会員一同、心より感謝申し上げます。今後は正会員のひとりとして引き続き当会を見守っていただきます。長い間、本当にお疲れ様でした。



- 当会では、今年もシマフクロウの保護活動を支えるためのクラウドファンディング（寄付募集）を実施しております。昨年に引き続き、10万円以上のご寄付をいただいた方へのお礼として、保護活動の第一人者・山本純郎氏の署名入り著書『シマフクロウのすべて』を進呈いたします。同氏の研究の集大成となる貴重な一冊です。詳細は、運営機関であるACT NOW社のプロジェクトページをぜひご覧ください。

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】（担当：米澤・佐々木）

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階（株）北海道二十一世紀総合研究所内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-3143

URL: <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: info@hokkaido-shimafukurou.org

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第44号

写真：山本純郎



令和8年度通常総会審議内容(令和8年6月23日開催)

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

本年度の通常総会の審議内容要旨についてお知らせします。

【令和7年度事業報告】

- 第1回理事会・通常総会の開催（令和7年6月23日）
- 第2回理事会の開催（令和8年1月21日）
- 機関誌「北海道シマフクロウ通信」の発行（令和7年5月、同年9月、令和8年1月）
- クラウドファンディングの実施（令和7年9月5日～10月31日）
- シマフクロウ保護活動支援金の贈呈～11先130万円（令和8年2月27日）
- (株)コンサドーレ連携によるシマフクロウ保護の広報、寄付募集活動実施（令和7年11月8日大分トリニータ戦）
- 北洋銀行共催「シマフクロウ保護・サステナビリティ推進講演会」開催（令和8年1月20日）

【令和7年度決算報告】

- 経常収益：3,268 千円（正会員・賛助会員会費、寄付金など）
- 経常費用：3,697 千円
 - 事業費：2,786 千円（保護活動支援金、機関誌発行費など）
 - 管理費：911 千円（事務局事務委託費、会計管理費など）
- 期末正味資産：2,516 千円（次期繰越正味財産額）

【令和8年度事業計画】

- 機関誌の発行（年3回、会員のほか道庁など各公共施設等で配布）
- WEBサイトでの発信（ホームページ等での活動広報、情報発信）
- 講演会等の開催（時期未定、シマフクロウ保護活動等）
- (株)コンサドーレとの連携（年2回程度、ホーム戦開催時にブースにて広報・募金活動）
- シマフクロウ保護活動に携わる個人・団体への財政的支援実施
- 保護活動支援金原資募集および保護活動啓発のためのクラウドファンディング実施

【令和8年度予算】

- 経常収益：3,507 千円（正会員・賛助会員会費、寄付金など）
- 経常費用：3,433 千円
 - 事業費：2,485 千円（保護活動支援金、機関誌発行費用など）
 - 管理費：948 千円（事務局事務委託費、会計管理費など）
- 期末正味資産：2,590 千円（次期繰越正味資産額）

事務局より

ご協力をお願い●令和8年クラウドファンディング実施中

当会では、本年もシマフクロウの保護活動に取り組んでいらっしゃる個人・団体の皆様への支援を継続的かつ安定的に行い、併せて保護活動に対する啓発を図るため、クラウドファンディングによるご寄付の募集を実施いたします。シマフクロウの未来を守るため、この主旨にご賛同くださる皆様におかれましては、ご寄付へのご協力、またお知らせの方々へのPRにもぜひお力添えを賜りますようお願い申し上げます。インターネットを通じた応募となりますので、ご不明な点がございましたら、運営元の株式会社ACT NOWのサイトをご覧ください。また、当会事務局までお気軽にお問い合わせください。

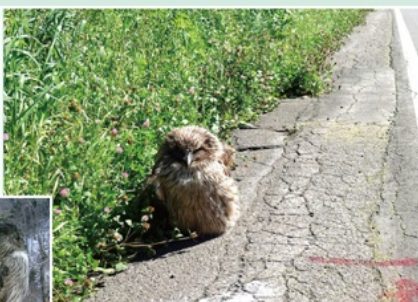
環境省レッドリスト 絶滅危惧ランキング改訂に あたって

環境省レッドリストの改定により、シマフクロウの絶滅危惧のランクがIA類からIB類へ見直されました。今回の改善は、行政や保護関係者、そして市民の皆さまからの温かいご支援と長きにわたる尽力が実った結果と受け止めています。

しかしながら、道東地域を中心に個体数が増加傾向にある一方、生息地周辺での森林伐採など環境の消失は続いています。また、新たな生息地が少ないため過密化が起きている地域もあり、今後は日高山脈や石狩以西の道央・道南地域への個体分散が大きな課題です。ランクが下がったとはいえ、依然として予断を許さない状況です。

当会としても、今後も皆さまと連携し、ご寄付をもとにした生息民有林の購入や所有者との協定を通じた保全対策、生息地のネイチャーポジティブ化、そして多くの方にシマフクロウの現状をお伝えする活動などを推進します。そして、シマフクロウがすめる北海道の自然環境を未来へつなぐため、引き続き全力を尽くしてまいります。

公益財団法人日本野鳥の会
自然保護室 苫小牧グループ チーフ
松本潤慶



写真提供：齊藤氏



写真提供：竹中氏

お寄せいただいたご支援は、今後一定の手続きを経て助成先や金額等を決定し、保護活動の支援金として役立ててまいります。その内容につきましては、後日機関誌等を通じて皆様に責任を持ってご報告させていただきます。

第8回クラウドファンディング実施概要

目標金額●700,000円

募集期間●令和8年9月4日(金)～10月30日(金)

募集運営●株式会社ACT NOW

環境省が公表した第5次レッドリストにおいて、シマフクロウの絶滅危惧ランクが1段階引き下げられたことは喜ばしいことです。ただし、同省が公表している

本種の道内生息数はわずか200羽程度。種を維持するための個体数としてはまだ危機的な状況にあることには変わりありません。私は世界各国における希少猛禽類の保全活動に関わっていますが、特に島嶼である北海道のような限られた生息域しか持たない種に対するリスクが大きな問題になっています。例えば、カリフォルニアコンドルの個体数は500羽程度ですが、地球上の限られた地域にしか生息していないため、鉛中毒や高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）などにより急激に個体数が減少するリスクを排除できません。このためIUCNのレッドリストでは絶滅の危機が極めて高い種と位置付けられており、生息域内保全と域外保全を連立させたワンプランアプローチが積極的に実施されています。

昨年10月、根室総合振興局管内でシマフクロウの亜成鳥1羽がHPAIに感染して死亡しているのが確認されました。病理検査の結果、本個体は甚急性の経過を経て死亡したことが判明し、抗ウイルス薬による治療も間に合わなかったであろうことが示唆されました。野鳥のHPAI蔓延は20年前には考えられなかったことです。引き続き、新興感染症や環境汚染物質などによるリスクを念頭に置きながら、“減らさないための保全活動”に力を注ぎたいと考えています。

猛禽類医学研究所 代表取締役
齊藤慶輔



シマフクロウは土地への定着性が強い生物ですが、地道な生息調査の継続で確認数が2022年には100つがいに加え、ゆっくりですがさらに拡大を続けていま

す。また自然の餌で生息する地点は全体の9割になりました。1990年代、わずか36つがいしか確認できず、1/3が給餌を受け、さらに生息地が消滅していく状況に憤り、「脱！絶滅危惧！」を目標に私は保護と研究に取り組んできました。当時の状況とその後経緯、関係者の保護努力を思い起こし、また自然やシマフクロウの生命力を踏まえると、絶滅危惧がひとつランクダウンしたことは素直に喜びたいと思います（他種の危惧ランクと比較すると判定材料に疑問は感じますが）。

北海道各地の景観は、基質的な自然環境の違いに加え、150年間の産業改変を受け、地域により大きく変化しました。調査を通じ、各地のシマフクロウはその土地の自然環境や、時に人間環境に左右されながら、適応し生き抜いているのを感じます。いっぽうで過去の消滅やいまだ生息できない地域には原因や背景があり、今後の拡大に向けて理解、解決すべき事柄は多数あります。生息の現状を丁寧かつ科学的に把握し関係機関に理解と調整を図ることが、これからのシマフクロウや関わる多くの人達のために今の自分に課せられた使命であると考えています。

シマフクロウ環境研究会 代表
竹中 健

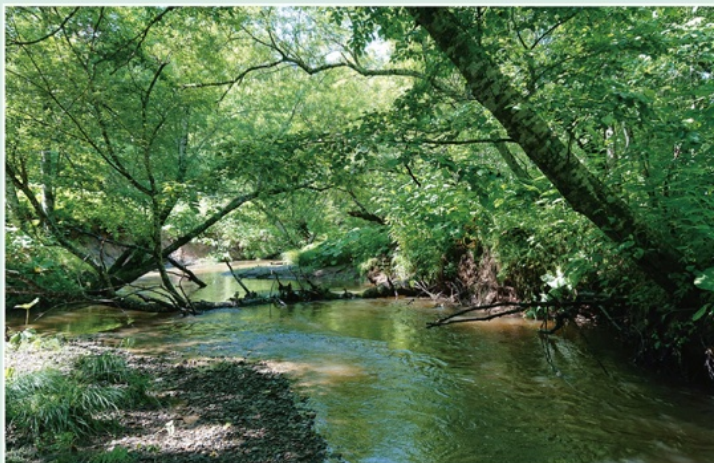


日本のレッドリストが現在のカテゴリー分けを採用したのは1998年ですが、それ以来シマフクロウはずっと「絶滅危惧IA類」に区分されてきました。このカテゴリーには、近い将来の絶滅危険性をもっとも高い生物種が含まれるので、シマフクロウの絶滅危険性は国内でトップクラスだった、と言うことができます。

その後数回のレッドリスト改訂を経て、今年2026年3月、初めてシマフクロウのカテゴリーが一段階下がり、「絶滅危惧IB類」になりました。まだ絶滅危惧種であることに変わりはありませんが、少し絶滅の危機が遠ざかったとは言えるでしょう。関係者の努力の成果なのはもちろんですが、「北海道シマフクロウの会」のように、シマフクロウ保護を応援してくださる方々に守られて、ようやくここまで来ることができました。

それにしても、メディアの報道では、トキやタンチョウのカテゴリー変更ばかりが大きく取り上げられ、シマフクロウへの注目度の低さを思い知らされました。道のりはまだまだですね。

北海学園大学 工学部生命工学科 教授
早矢仕有子



シマフクロウの保護区風景 写真提供：日本野鳥の会

事務局レポート

北海道コンサドーレ札幌連携イベント第7回

5月9日(土)に大和ハウスプレミストドームで開催された大宮アルディージャ戦にて、北海道コンサドーレ札幌との連携イベント第7弾を実施いたしました。会場内に設けた特設ブースでは、シマフクロウ保護活動のPRとともに支援募金を呼びかけ、約400名ものファン・サポーターの皆様にお立ち寄りいただきました。お寄せいただいた募金総額は84,612円にのぼります。今回の活動にあたり、北海学園大学の早矢仕教授、日本野鳥の会、環境省(北海道地方環境事務所・釧路自然環境事務所)の皆様にご多大なるご協力をいただきました。また、コンサドーレのマスコット「ド

～今回もたくさんの温かい応援・ご支援、 本当にありがとうございました！

ーレくん」やダンスドリルチーム「コンサドールス」も応援に駆けつけ、シマフクロウの着ぐるみ「ブラッキー」と一緒に記念撮影を楽しむ多くのご家族連れで賑わいました。ブースに展示したシマフクロウの剥製も大きな注目を集め、私たちの活動説明に熱心に耳を傾けてくださる姿が印象的でした。皆様からの温かいご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。今後ともシマフクロウ保護活動へのご理解とお力添えをよろしくお願いいたします。

